

七月(文月)

高野長英記念館の風景

せいがくりやつき 星学略記

梅雨空ではありますが夏至が過ぎ 暑さがどんどん強くなっていく時期となりました いかがお過ごしでしょうか 先日 ホタル鑑賞会の開催にふれ この時期の風物を感じました 7月7日は七夕 年に一度 織姫(ベガ)と彦星(アルタイル)が会えるという七夕伝説があります 長英も夜空に深い関係があります 長英は天文学訳書「星学略記」(古代ローマ、ギリシャの天文学史)等を著述しています 長英も同じ夜空を眺めていたと思うと 不思議な感覚になります

【撮影：6月27日】



長英の手紙

養父玄斎への手紙 1825(文政8)年7月19日

長英数え22歳。1823(文政6)年、シーボルトは長崎出島のオランダ商館付医師として来日します。シーボルトの医術伝習の情報を得た長英は長崎行きを師吉田先生と兄弟子の駒留正見に相談し、長崎行きを決断します。長英は世話人の薬種商神崎屋源蔵より一両、駒留より三両を借金して長崎に出発したので養父に借金の返済を懇願しています。 (「高野長英の手紙」より)